

令和5年度 苫小牧市立沼ノ端中学校 学校評価

教育推進の指標	未知なるものに果敢に挑戦する自立の精神にあふれ、連帯と共生の豊かな心と活力あたる人を育てる(自立・連帯・共生)
学校教育目標	「高い知性」 「豊かな心情」 「強い身体」
育成を目指す資質	問題発見・解決能力 言語能力 思考力・判断力・表現力 情報活用能力 学ぶ意欲 共生 思いやり 感謝の心 コミュニケーション力 協働 貢献
学校経営方針	1 生徒の可能性引き出す令和の日本型学校教育の推進 2 実効的な働き方改革と教育の質の向上 3 小中エリア会議とCSが機能する地域とともにある学校づくり
学校経営の重点	社会に開かれた教育課程(カリキュラム・マネジメント) 人材育成(教師力の向上) チーム学校づくり(組織力強化) 教育の質の向上(働き方改革の推進) 信頼される学校づくり(地域とともにある学校)

重点目標	推進内容	自己評価			検証結果	学校運営協議会委員の評価		改善策
		生徒	保護者	教員		評価	意見	
育社成 会で 活きる 力の	1 学校は学ぶ意欲や考え判断し表現する力を育む生徒主体の授業を行っている。	3.1	3.1	3.1	「主体的対話的深い学び」の授業が広がってきている。	3.4	・主体的対話的深い学びの実現には、全教育活動で生徒の学習意欲を高めることが重要である。 ・日々の指導に感謝。 ・極端な不満がないので今後も生徒に寄り添う教育の向上と自主的活動の支援を願う。 ・生徒会活動などボランティア、地域活動の参加を期待する。 ・社会で活躍する人材を育てるという意味では別室対応の在り方については検討を要する。 ・放課後に小学生と勉強したり、一緒に活動できる場をつくる。	・生徒主体の授業づくりが一層充実できるように全教育活動の検証改善サイクルを機能させ、指導の重点化を図り、個別最適な学習と協働的な学習の一体化を推進する。 ・生徒一人一人の個性を大切にできる教育を目指し、安心して学校に通うことができる環境づくりを行う。 ・小学校との連携を図り、自主的実践的な生徒会活動や全校生徒による地域貢献活動を一層充実させ社会に活きる力を育成する。
	2 総合的な学習の時間の地域学習やキャリア教育では社会や未来を担う力を育てている。	3.1	3.1	3	問題解決能力や情報活用能力を育成する総合的な学習が大切である。	3.2		
	3 学級学年は、生徒一人一人の個性が生きる集団づくりや仲間づくりが行われている。	3.2	2.9	3.1	個性を生かし安心して過ごすことができる学級・学年の集団づくりが欠かせない。	3		
	4 生徒会活動はよりよい学校づくりに向け自発的な活動を行い生徒の自己実現を支えている。	3	3.3	3.4	生徒の自主的自発的な活動を促し自己実現を叶えられる支援が求められる。	3.4		
	5 生徒一人一人の特性に配慮した教育活動や多様な人との交流学習がよく行われている。	2.8	3	2.8	個々の特性を理解し、誰でもが尊重される環境づくりが必要である。	2.8		
育健豊 成やかな 心身と 体の	6 道徳の授業では心の在り方やよりよい生き方を広く見つけ生徒の豊かな心を育てている。	3.2	3.1	3.2	道徳の時間の充実が図られ、生徒が考え議論する工夫も進められている。	3	・生徒は真面目にルールを守ろうとしていたり他学級、地域とのコミュニケーションをとりたいと考えていることがわかった。 ・生徒が良い学校にしようとする意識が感じられる。生徒会活動や地域連携を強化し心の育成、不登校生徒も含め、生徒に合う迅速な対応を進めてほしい。 ・生徒の豊かな心の育成のためには、学校が家庭、地域の協力、共通理解が必要。	・個性を認め合う人権教育を浸透させ、学級、学年、学校の交流を促進できるよう支援する。 ・地域と関わり、繋がる機会を重視した教育活動を教育課程に計画的系統的に位置付ける。 ・家庭、地域、小中学校の課題や目標を共有し、家庭や地域連携を一層強化し、地域の創り手として必要な資質・能力の育成を図る。
	7 学校は家庭や地域と協力して、きまりを守り、自立し、共に支え合える生徒を育成している。	3.4	3.1	3	生徒と大人の自主自律や共生に関する認識に差が見られる。	3.2		
	8 学校は家庭や地域と協力して、いじめのない心の通い合う学校づくりに取り組んでいる。	3.3	3	3.1	いじめは許されないという認識は高まっているが良好な関係構築が急務である。	3.2		
	9 学校は地域と協力して、自他の生命や健康安全を大切に授業や教育活動を行っている。	3.4	3.1	3.2	家庭や地域との連携により命や健康に対する意識が高まっている。	3.6		
推学信 進校頼 づさ くれる の	10 中学校は9年間を見据えて小学校との接続を大切に学習指導や生徒指導を行っている。	3.4	3	2.8	生徒にとって接続ギャップは少ないが、小中連携の取組の充実が必要である。	3.1	・小中9年間の学習、生活指導の積み上げが生きる力の土台に繋がる。 ・小学生や大人が中学生と接する場により助け合いや支え合いが広がる。 ・色々な方法でわかりやすく情報を提供してほしい。教員の意欲的な指導に感謝の言葉があり安心。 ・今後も家庭、地域、学校が連携できる地域性を生かした教育環境を願う。 ・保護者は学校で何が起きているか情報を欲しがってる。YouTube配信の評価が高い。酷暑の際のスピード感、フレキシブルな対応を望む。	・小中学校の教育活動を広く公開し、ホームページやオンライン配信、報道機関等への情報発信の場を拡充していく。 ・多様な幼保小中の学校課題や緊急時の対応にも迅速に対応できるよう校内の組織体制と各種団体、機関との意思疎通を図る。 ・引き続き、家庭や地域の声を真摯に受け止め、誠実に対応を重ねていく。
	11 学校は保護者や地域に学校の情報をわかりやすく積極的に公開している。	3.1	3.1	2.9	よりわかりやすい情報提供の工夫を検討していく必要がある。	2.7		
	12 学校は生徒のために一生懸命学び指導力を高め保護者や地域の声に真摯に対応している。	3.5	3	3.1	生徒が感じている意識と保護者や教員の意識に差がある。	3.7		
	13 学校は生徒や教員の健康安全に配慮し、自主的自発的な部活動を効果的に行っている。	3.4	3	3.2	部活動の地域移行や時間を意識した働き方に関心が向けられている。	3.7		